國學院大學学術情報リポジトリ

神道の連続と非連続：
神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成：
21世紀COEプログラム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學21世紀COEプログラム 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): 170.4, 神道‖シントウ キーワード (En): 作成者: 井上, 順孝, エルマコーワ, リュドミーラ, ブロトンス, アルノー, ランベッリ, ファビオ, エバソール, ゲイリー・L, アントーニ, クラウス, 川村, 邦光, 國學院大學21世紀COEプログラム メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000504

21世紀ＣＯＥプログラム
21st Century Center of Excellence Program

神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成
Establishment of a National Learning Institute for the Dissemination of Research on Shinto and Japanese Culture

神道・日本文化研究国際シンポジウム（第３回）

神道の連続と非連続

平成17年２月
國學院大學21世紀ＣＯＥプログラム

21 世紀ＣＯＥプログラム
21st Century Center of Excellence Program

神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成
Establishment of a National Learning Institute for the Dissemination of Research on Shinto and Japanese Culture

神道・日本文化研究国際シンポジウム（第３回）

神道の連続と非連続

平成 17 年 2 月 21 日
國學院大學 21 世紀ＣＯＥプログラム

深川不動堂

目　次

はしがき
国際シンポジウム「神道の連続と非連続」

開会の挨拶 ……6
セッション１
〈発題１〉神道の概念と初期の歌論のある問題
リュドミーラ・エルマコーワ ……10
コメント　加瀬直弥

〈発題２〉古代・中世時代における熊野の神の変貌と連続について
アルノー・ブロトンス ……26
コメント　藤井弘章

セッション２
〈発題３〉『麗気記』にみる神道の「連続」と「非連続」
ファビオ・ランベッリ ……46
コメント　太田直之

〈発題４〉宗教史研究における神道の扱い
ゲイリー・Ｌ・エバーソール ……63
コメント　遠藤潤

セッション３
〈発題５〉神道と国体―政治的イデオロギーとしての連続性を中心に―
クラウス・アントーニ ……78
コメント　松本久史

〈総合討議〉 ……108
Ⅰ.総合コメント川村邦光 ……109
Ⅱ.応答 ……114
Ⅲ.自由討議 ……121

はしがき

井上順孝

この報告書は、国学院大学21世紀ＣＯＥプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」による研究の一環として行われた第3回国際シンポジウムの記録である。一連のシンポジウムは、同プログラムの第Ⅲグループの研究目的の一環として、主に国内外の神道研究のネットワーク形成と研究成果の情報発信を目指して行なわれている。過去2回、国際シンポジウム及びミニ国際シンポジウムを行なったが、そのテーマを継承し、発展させている。すなわち第1回の「各国における神道研究の現状と課題」、第2回及びミニシンポジウムの「〈神道〉はどう翻訳されているか」における議論の上に、「神道の連続と非連続」を今回のテーマとした。これまでアメリカ、オーストリア、オランダ、韓国、フランスから研究者を招聘してきたが、今回は新たにイタリア及びロシアの研究者に議論に加わってもらった。議論がいっそうひろがりをもったと考える。また、国学院大学の若手研究者に各発題のコメントを求めるという形式を新たに導入した。

これまでのシンポジウムの議論の過程で、神道を日本文化や日本宗教一般の中でどのように位置付けていったらいいのかという点が、きわめて重要な課題として浮き彫りになった。神道をどのような視点から捉えるかによって、神道の姿は大きく変わる可能性がある。そこで今回のシンポジウムでは、神道という概念が必要となるのはどの時代からと考えるか、神道と呼ばれてきたものの時代的変化をどう理解するか、神道と他の宗教との関係をどう扱うか、などの問いを背後に置きながら、さまざまな角度から議論を展開した。2日間に約百名の参加者があったが、フロアからの積極的な発言もあり、かなり突っ込んだ意見の交換が行われた。

神道の連続と非連続というテーマは実に多様な広がりをもっており、神道史をとおしての大きな問題であると同時に、ある地域における特定の神信仰といったものについても検討しうる課題である。日本人の神道研究においては、神道の宗教史的連続というものは、いわば自明のこととされるのが普通である。その点にも疑問を投げかけ、さまざまな角度から議論が展開されたことは、神道研究の今後にとって、大変意義深いことと考える。

2003年3月、同年9月及び12月、そして今回の2004年9月の国際シンポジウムと1年半にわたって開催された4回のシンポジウムは、いずれも比較的マクロな視点からのものであった。また今後の神道研究にとっては、きわめて基本的問題であると同時に核心に位置する問題であった。ここで提起された問題点、課題等を踏まえつつ、より焦点を絞った議論が行なわれなければならないと感じている。

国際的なネットワーク形成も着実に進行している。2005年3月以降、改訂英訳『神道事

典』のオンライン刊行も開始される予定である。こうした歩みのなかに、一連の国際シンポジウムの成果の一部を英文で公開していく作業も必要となると考えている。

シンポジウムにおける研究交流をより実のあるものとするため、その前後に実際に関連する宗教施設を見学することにしている。今回は、シンポジウムの前日、国外からの招聘者を含めたパネリストが、東京都内の富岡八幡宮及び深川不動を見学した。富岡八幡宮は大相撲の力士の手形などがあることで知られる有名な神社であるが、同宮の見学に際しては、富岡興永宮司、及び桜井重信権宮司に大変お世話になった。境内の施設、神社の歴史、その他について詳しい説明をいただき、資料も頂戴した。また巫女舞もみせていただいた。外国人研究者にとっては貴重な体験となった。両氏はじめ富岡八幡宮の関係者には篤く御礼申しあげたい。

会議の準備等に際しては、ＣＯＥプログラムを実施する拠点の一つである国学院大学日本文化研究所の事務課の方々にお世話になった。事務課長の市川義輝氏、主任の鍋島秋美氏、嘱託の西原由佳氏に御礼もうしあげる。また国学院大学大学院生の岡市仁志、小林瑞穂、藤吉優、森田善久の各氏には、当日のお手伝いをいただいた。これらの方々にも感謝したい。

最後に、第３回のシンポジウムの日程等の概要と実行委員とを以下に示しておく（肩書きはシンポジウム当時）。

第３回神道・日本文化研究国際シンポジウム

テーマ「神道の連続と非連続」

日時　2004年９月４日（13時半～17時）、５日（10時半～17時半）

場所　国学院大学120周年記念２号館１階　2104教室

プログラム

９月４日（土）

13：30　挨拶及びシンポジウム趣旨説明　井上順孝

＜セッション　1＞

司会　中井ケイト

13：50～15：10　（発題40分、質疑40分、以下同様）

発題１　リュドミーラ・エルマコーワ（Liudmila Ermakova）

「神道の概念と初期の歌論のある問題」

コメント　加瀬直弥

15：40～17：00

発題２　アルノー・ブロトン（Arnaud Brotons）

「古代・中世時代における熊野の神の変貌と連続について」

コメント　藤井弘章

9月5日（日）

<セッション　2>

司会　ノルマン・ヘイヴンズ

10：30〜11：50

発題3　ファビオ・ランベッリ（Fabio Rambelli）

「『麗気記』にみる神道の「連続」と「非連続」」

コメント　太田直之

13：00〜14：20

発題4　ゲイリー・L・エバーソール（Gary L. Ebersole）

「宗教史研究における神道の扱い」

コメント　遠藤潤

<セッション　3>

司会　井上順孝

14：35〜15：55

発題5　クラウス・アントーニ（Klaus Antoni）

「神道と国体―政治的イデオロギーとしての連続性を中心に―」

コメント　松本久史

16：00〜17：30

総合討議

総合コメンテータ　川村邦光

実行委員会

実行委員長　井上 順孝（国学院大学大学院文学研究科教授）

実行委員　Norman Havens（国学院大学日本文化研究所講師）

黒崎浩行（国学院大学日本文化研究所講師）

藤井弘章（国学院大学日本文化研究所講師）

遠藤潤（国学院大学日本文化研究所助手）

平藤喜久子（国学院大学日本文化研究所兼任講師・COE 研究員）

住家正芳（国学院大学日本文化研究所兼任講師）

Erik Schicketanz（国学院大学日本文化研究所調査員）

辻村志のぶ（国学院大学日本文化研究所調査員）

Ryan Ward（国学院大学日本文化研究所調査員）

江島尚俊（国学院大学日本文化研究所共同研究員）